

会 議 録

会 議 の 名 称	令和7年度第3回所沢市自治基本条例推進委員会
開 催 日 時	令和8年2月17日（火）午後6時から午後7時30分まで
開 催 場 所	市役所低層棟2階 202会議室
出席者の氏名	藤本 浩志（委員長）、木下 直三（副委員長）、有泉 大地、 北村 かのこ、田中 ひとみ、山口 治夫、高橋 祐二、廣川 隆通、 倉地 真太郎
欠席者の氏名	今川 奈緒
説明者の職・氏名	—
議 題	(1) 令和7年度所沢市市民意識調査の結果報告について (2) 第3期所沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について (3) その他
会 議 資 料	(1) 会議次第 (2) 令和7年度第3回所沢市自治基本条例推進委員会 (3) 所沢市市民意識調査報告書（令和7年度版） (4) 第3期所沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案） (5) 第3期所沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）に対 するご意見及び市の考え方
担 当 部 課 名	経営企画部経営企画課 電話 04（2998）9027 経営企画部長 鈴木 明彦 経営企画部次長 並木 茂幸 経営企画課 課 長 齋藤 伸宏 主 幹 柴崎 大助 副主幹 野畑 聡志 主 査 稗田 真理子 主 査 藤 尚文 主 任 北爪 多恵子

様式第2号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
	<p>開会后、藤本委員長の進行により議事が進められた。</p> <p>（1）令和7年度市民意識調査の結果報告について、事務局より説明資料に沿って説明を行った。</p>
委員	<p>所沢市への定住意向、愛着度が年々上がってきているのは素晴らしいことであるが、70歳以上の方の10%近い方が定住しないと考えているというのが気になった。どのような要因が考えられるのか。</p>
事務局	<p>居住形態についても調査を行っている。高齢者との関係までは分析できていないが、賃貸でいつでも引っ越しができるということが、愛着を持ちにくかったり、近隣との関わりの弱さにつながっているのではないかと考えている。</p>
委員	<p>介護や医療等の施設へのアクセスが原因で住み続けられないというのであれば課題と思っていた。</p>
委員	<p>所沢市内の施設に入所したくても入所することができず、近隣市に転出する方が多いと聞く。自身の身内でも同様の例があった。介護付きの施設を増やすことができれば定住意向割合も改善するかもしれない。</p>
事務局	<p>自身の親を所沢市内でいつまでも介護できるかどうかは切実な問題である。意見を受け止めて、福祉部門に伝えたいと思う。</p>
委員	<p>新型コロナウイルス感染症が流行した際に、所沢市には保健所がなく、どこで対応してもらえるのかと考えたことがある。中核市になると保健所の設置義務があると思うので、保健所設置から、子育てや高齢者、障害者福祉につながっていくのではないかと考えた。</p>
事務局	<p>令和12年4月の中核市に向けた準備を進めているところである。保健所は保健衛生の中核となる拠点施設である。なぜそこを目指しているのかというと、新型コロナウイルス感染症が蔓延したときの対応の反省がある。保健所への期待するご意見もいただきおり、しっかりと進めていきたいと考えている。</p>
委員長	<p>年代別で回答が偏っている。所沢市の18歳以上の人口はどのくらいなのか。所沢市の人口構成比どおりの回答であればよいが、差</p>

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
事務局	<p>が生じているのであれば、例えばもっと若者から回答を得る必要があるのではないか。</p> <p>所沢市の18歳から29歳までの人口の割合は14%程度であるが、回答率は7%程度となっている。高齢者の割合は25%程度であるが、回答率だと約30%となっており、回答率に差が生じている。</p>
委員	<p>道路への要望が高い。信号のLED化を目にする機会が増え、進んでいると実感する。道路に関しては交通事故にもつながるため、本格的に進めるべきと考える。</p>
事務局	<p>渋滞対策、生活道路を拡げてほしい、街灯をつけてほしい、横断歩道をつけてほしいなどの要望があがっている。</p> <p>道路を広げたり、新しく作るには、住民の合意も必要であり、時間もお金もかかる。優先順位をつけて進めているが、全ての要望を受け入れられるわけではなく、そういったところの差が数字に表れているのではないかと考えている。道路は生活に非常に大事なものであるため、市としてもしっかりと進めていきたいと考えている。</p>
委員	<p>危機管理・防災とあるが、具体的にはどういったことなのか。</p>
事務局	<p>防災対策に満足していますかという設問であるため、自身のまわりを見て行政が防災対策をきちんとやってくれているのかという満足度が数字に表れているものとする。</p>
委員長	<p>生の声やデータを基に今後の施策に活かしていただければと思う。</p> <p>（2）第3期所沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について、事務局より説明資料に沿って説明を行った。</p>
委員	<p>答申（案）についての意見はない。</p> <p>中核市になると、市民ニーズにあった行政サービスの提供ができるようになるのと同時に責任も大きくなると理解している。株式会社KADOKAWAも重要であるが、それ以外の多様な企業との関わりも重要である。また、市民ニーズを多層的多角的にとらえていく必要があると感じた。こどもや高齢者、障害者への記載はあったが、外国人への記載はなかった。中核市を目指すうえでは、そういった要素も考慮していく必要があるのではないかと考える。</p>

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
事務局	株式会社KADOKAWAとのCOOL JAPAN FORES T構想は市としても売りにしている一つである。市としての関わり方についてはバランスが重要である。企業との連携については、現在公民連携を進めている。市が持っていない知恵やノウハウを民間事業者に提案いただいている。
委員長	株式会社KADOKAWAがいて、また一例として西武鉄道(株)というインフラが整備されていることも強みの一つであると考え。
事務局	欠席した委員から意見をいただいているため、紹介する。 「こどもの幸せについての、所沢市独自の具体的な施策のイメージが伝わりづらいと考え、こどもの権利条例の制定を検討された方がいいのではないか。こどもの主体性の尊重が重要なテーマになると思うが、主体性の確保として、こどもに対して、意見表明の機会、情報保障等の権利等を保障する必要があると考える。また、計画の実施の段階で良いと思うが、所沢市ならではの個性を示していただきたい。」
委員長	この意見に対して、事務局はどう考えているのか。
事務局	貴重なご意見をいただいた。今後の事務の参考にするとともに、関係部署に報告、共有したい。
委員長	お2人から意見をいただき、それに対する事務局の考えが示されたところである。この意見については、答申にも反映したいと考えるが事務局は如何か。
事務局	多様性の部分や若者の市民参加の部分については、答申にも反映したいと考えている。
委員長	「人々の多様性を尊重しながら、若者を含めた市民参加を積極的に促進することで」の一文が追記されている。総合戦略の内容そのものを修正するというものではないが、計画策定後においてもポイントとなるキーワードを残しておこうという意図である。修正案を改めて委員の皆様にご確認いただきたい。
委員長	もしないようであれば、全委員より了承いただいたものとして、この修正案を委員会の答申として事務局を通じて市長へ提出することとしたい。

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
<p>委員長</p> <p>事務局</p>	<p>今後のスケジュールについて伺いたい。</p> <p>表紙やレイアウト等を調整し、3月中の完成を予定している。完成次第送付するので、確認願いたい。</p> <p>(3) その他 事務局より、委員会の任期について説明を行った。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>